

別添資料:萩ジオパークにおける関係者区分と参画の仕組み

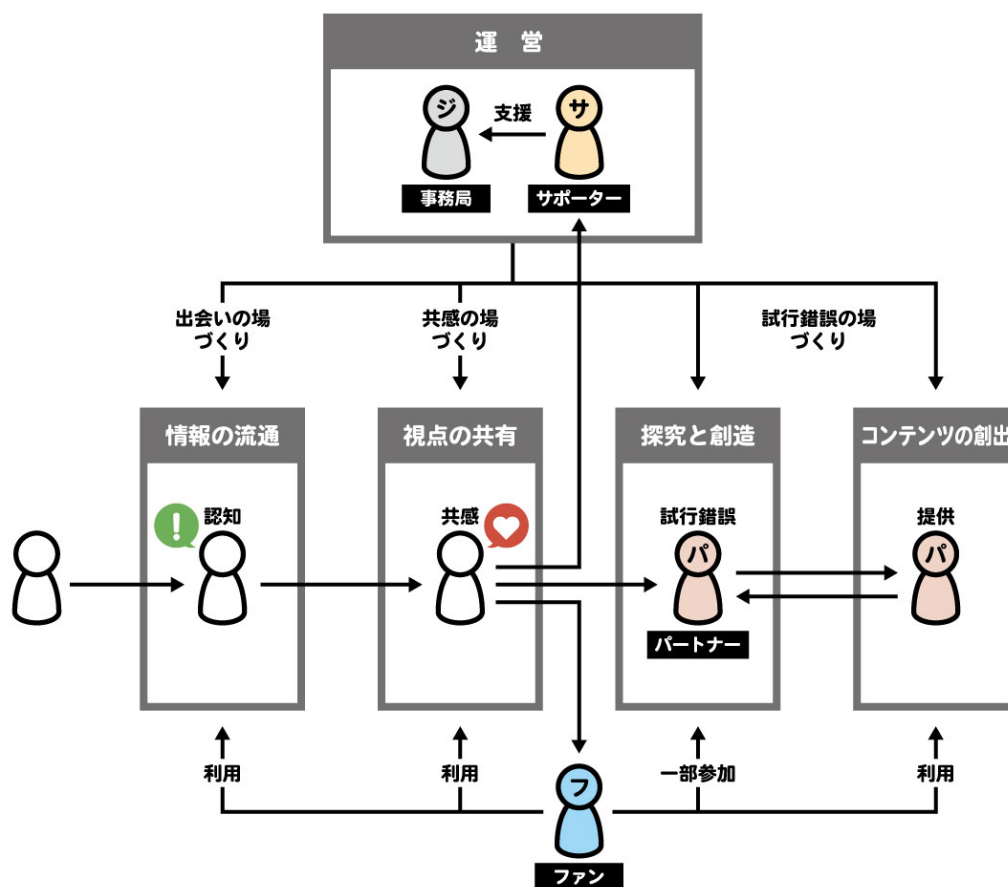
本資料は、萩ジオパークの活動に関わる関係者を「パートナー」「サポーター」「ファン」の3つの区分に整理し、それぞれの関わり方や仕組みを具体的に示すものです。

萩ジオパークでは、理念への共感を出発点としつつも、関わり方の深さや主体性は一律である必要はないと考えています。活動を共に創り、実装まで担う関係者、運営を支える関係者、楽しみながら応援する関係者が、それぞれ無理のない形で関わることが、持続的な活動につながります。そのため本計画では、

- 主体的に事業を担う「パートナー」
- 運営や実施を支える「サポーター」
- 活動を楽しみ、応援する「ファン」

という三つの区分を設け、それぞれに応じた役割や仕組みを整理しています。

計画書本文では全体像と考え方を示し、本資料では各区分について、登録までの流れ、関わり方、役割、具体的な活動内容を詳しく解説します。関係者が自らの立場や関心に応じて必要な情報にアクセスできるよう、本資料を別添として位置づけています。



A. パートナー（共同活動者）の仕組みについて

A-1. パートナーの位置づけ

パートナー制度は、萩ジオパークの理念に共感し、自身の仕事や活動の中にジオパークの視点や知見を主体的に取り入れようとする個人・団体が、萩ジオパーク推進協議会と対等な立場で共同活動を行うための仕組みです。

本制度は、単なる連携や協力関係をつくることを目的とするものではありません。地域の自然環境と人の営みの関係を踏まえながら、調査・研究や商品・サービスの開発といった実践を通じて、持続可能な暮らしや産業のあり方を具体的に形にしていくことを目的としています。

A-2. パートナーの登録の流れ

パートナーとして活動するためには、まず「理念の普及」に位置づけられる講座、研修、ツアー等に参加し、萩ジオパークが目指す考え方や特徴を理解することを前提とします。

そのうえで、応募・提案・相談といったプロセスを経て、自身の関心や専門性、事業内容とジオパークの視点との接点を確認しながら、パートナー登録へと進みます。

この段階では、必ずしも具体的な成果や計画が固まっている必要はなく、「どのようなことに取り組みそうか」「どのような形で関われるか」を協議会と対話しながら整理していきます。

A-3. 活動の進め方と役割分担

パートナー制度における活動は、原則としてパートナー自身が主体となって進められます。調査・研究、商品やプログラムの開発、実証的な取組など、活動内容や進め方はパートナーごとに異なります。

萩ジオパーク推進協議会は、活動の主体となることを目的とはせず、対話や助言、関係者の紹介、情報提供などを通じて、パートナーと並走する立場として関わります。また、必要に応じて専門的な知見を提供し、大学や研究機関、専門家との連携をつなぐ役割も担います。

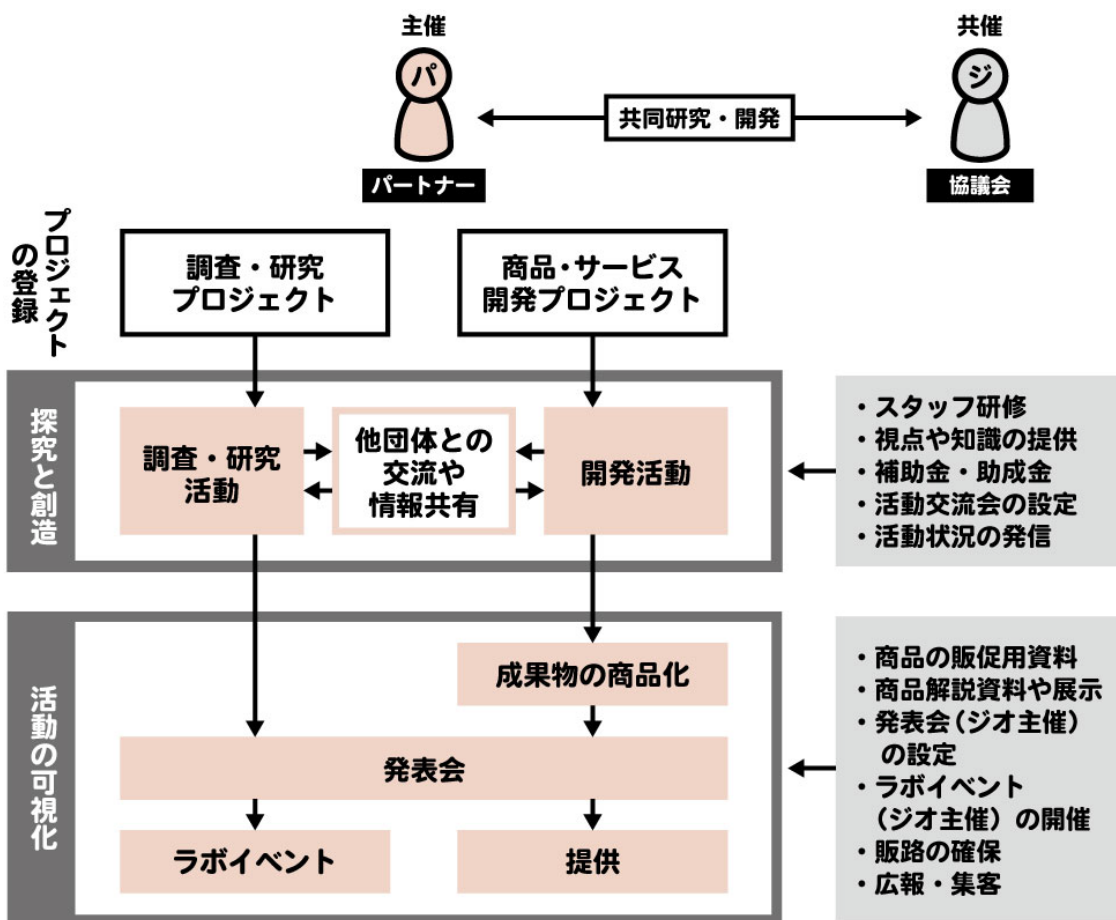
活動は途中で立ち止まったり、方向性を見直したりすることも想定し、必ずしもすべての取組が商品化や事業化に至ることを前提とはしていません。

A-4. 可視化と社会への展開

パートナーによる活動は、試行錯誤の過程も含めて可視化します。そのうえで、一定の段階に達した取組については、成果発表や体験の場を設け、地域住民や利用者、ファ

ンが関われる機会をつくります。

さらに、共同開発によって商品やプログラムが形になった場合には、それを広く社会に届ける段階までを視野に入れます。萩ジオパーク推進協議会は、単なる発信にとどまらず、共同開発商品の販売や提供に協力できる体制づくりを進め、ジオパークとしての販路や売り場の確保、流通の仕組みづくりにも取り組みます。これは、環境や持続可能性を理念として語るだけでなく、経済や産業の分野においても実際に機能する仕組みを生み出すことが、持続可能な開発の実現に不可欠であるという考えに基づくものです。



A-5. 商品・サービスの「提供」について

パートナーとの共同開発によって新たに生まれた商品やサービスの、「萩ジオパークとしての提供」に関する仕組みとして、以下のような複数の型を想定し、関係各所との協議・検証を重ね、運用方法や条件を整えていきます。いずれか1つに限定せず、取組の内容や段階に応じて組み合わせて活用します。また、ここに示した具体例以外の可能性も排除せず柔軟に検討します。

① まとめて伝える仕組み

- ジオパークの視点をもつ商品やサービスをまとめて紹介・提供できる場
- セレクトショップ的な編集・キュレーション機能

② 信頼性を付与する仕組み

- 認証表示やラベル等を通じて、既存の流通経路と接続
- 品質保証ではなく、考え方や背景への信頼を示す役割

③ 試行・実証のための取扱い

- 直営施設等を活用した試行的・限定的な取扱い
- 新たな商品やチャレンジ段階の取組を試す場

④ 情報付与・ストーリー共有

- 商品単体ではなく、背景や考え方を簡潔に伝える情報の付与
- 学びや共感（施策2）との接続を意識した設計

⑤ ファンの反応を活かす仕組み

- 利用者の感想や反応を、次の改善や展開に活かす
- 売上だけに依らない評価の視点を持つ

A-6. パートナー制度が目指すもの

パートナー制度は、理想論を広めるための制度ではありません。また、従来の経済活動を否定するものでもありません。環境負荷を抑えながら、これまでと同等、あるいはそれ以上の価値や収益を生み出す方法を、現場で試し、形にし、社会に実装していくこと。そのために、萩ジオパーク自身も一当事者として関わり、行動を通じて解決策を示していくこと。それこそが、本計画におけるパートナー制度の中核であり、萩ジオパークが目指す持続可能な地域づくりの本丸の取組です。

＜パートナーズクール＞

パートナーズクールの位置づけ

パートナーズクールは、萩ジオパークにおけるパートナー制度の一類型として位置づける取組です。学校が主体となり、ジオパークの理念や視点を、複数年にわたる体系的な教育活動として実装する共同活動モデルです。

従来実施してきた出前授業や単発的な野外活動を発展させ、学び・体験・実践を段階的に積み重ねることで、学校教育の中に「地域の自然と暮らしに根ざした学び」を定着させることを目的とします。

基本的な考え方と参加形態

パートナーズクールでは、以下を基本とします。

- 学校全体、または特定学年・特定クラス単位での参加
- 最低2学年以上にわたる継続的な取組
- 総合的な学習の時間や、理科・社会など既存教科の枠組みを利用

特に、地域の自然環境や伝統産業（とりわけ一次産業）は年間を通じた営みであることから、「理解を深める段階（インプット）」と、「実際に関わり・試す段階（実践）」を分けて設計することを基本とします。

学習の段階構成と到達イメージ

パートナーズクールでは、次のような段階を想定します。

- ① 地域の自然環境の体感・観察
- ② 地域ならではの暮らしや産業の理解・体験
- ③ 地域の暮らしや産業の実践

これにより、子どもたちは

- 地域で暮らし、働くことを具体的にイメージできるようになること
- 将来どの地域に暮らしたとしても、その土地に応じた暮らし方を考え、実践できる力を身につけること

を目指します。

成果の可視化と地域への接続

学校での学びについては、

- 学校内での発表
- ジオパーク主催の発表会や展示
- 地域住民が参加・見学できる場

などを通じて、活動の過程や成果を地域に可視化します。

内容によっては、パートナー制度と同様に、協議会が発表や提供の場づくり、販売・提供の支援を行うことも想定します。これにより、学校での取組が地域住民の理解や関心につながり、新たなパートナー活動へと接続していく循環を生み出すことを目指します。

運用体制と協議会の役割

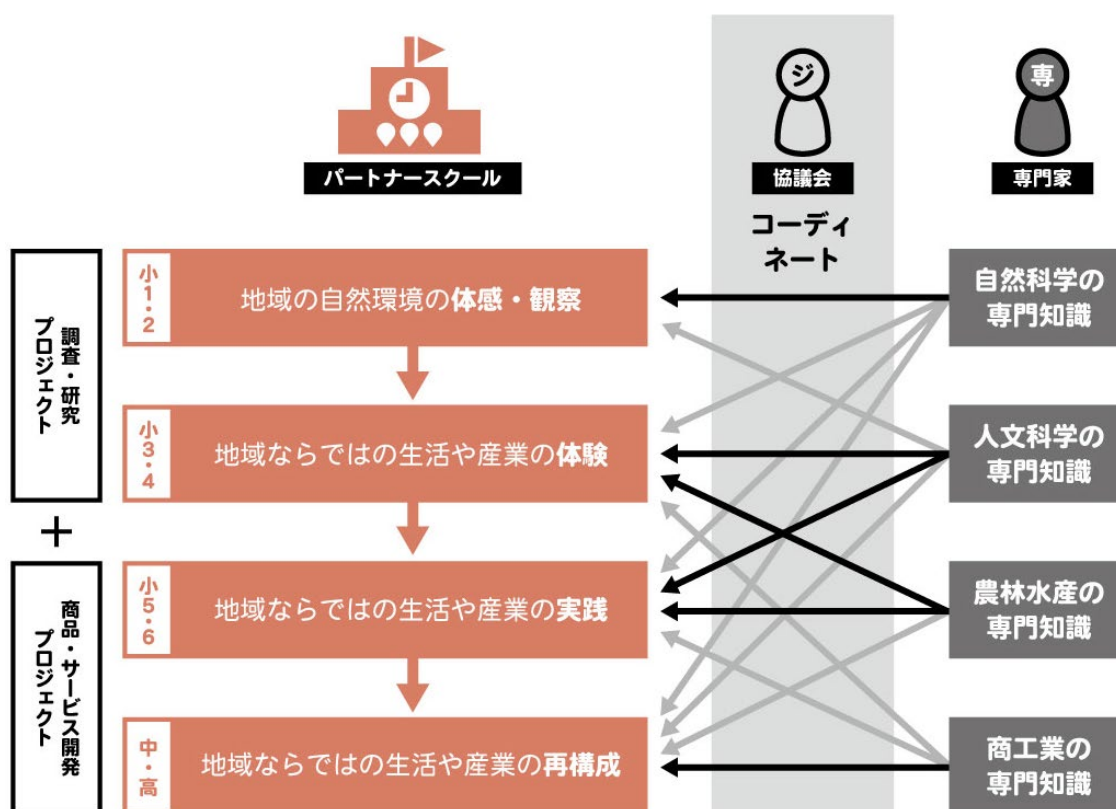
パートナーズクールは、常時少数校をモデル校として設定し、2～3年程度の期間を目安に、萩ジオパーク推進協議会が重点的に伴走します。

期間終了後は、学校が主体的に取組を継続できる状態を目指し、協議会は必要に応じた支援を行いつつ、次のモデル校への伴走に注力します。

協議会は学校と対等な立場で連携し、

- 学習内容の設計支援
- 地学等の専門的知見の提供
- 外部専門家や地域団体との調整
- 発表・提供の場づくり

などを担い、学校の主体性を尊重しながら、取組全体をコーディネートします。



B. サポーター（活動支援者）の仕組みについて

B-1. サポーターとは

サポーターは、萩ジオパーク推進協議会が主催する活動を支える立場として関わる関係者（ジオガイドなど）の総称です。自ら事業や活動を主体的に展開する立場ではなく、協議会の企画・運営を補完し、活動が円滑に進むよう支援します。

パートナーのように「実装」や「事業化」を担う役割ではなく、活動の基盤を下支えする存在として位置づけます。

B-2. サポーターになるまでの流れ

サポーターへの登録は、誰でも可能ですが、萩ジオパークの目指す考え方や活動の特徴を理解したうえで関わっていただくため、原則として、理念の普及事業への参加を経て行います。具体的には、以下のような講座や研修が該当します。

- 萩ジオガイド養成講座
- 学校教育サポーター研修
- 萩ジオアカデミー、ジオサイト見学会 など

これらに参加し、内容を理解したうえで登録することで、サポーターとしての活動が可能となります。

B-3. サポーターの主な役割

サポーターは、協議会が主催する事業において、以下のような役割を担います。

- 協議会主催の講座、イベント、調査、普及活動等への参加・協力
- 運営補助、現場対応、学習支援、情報整理等
- 必要に応じて、専門性や経験を活かした助言・補助

関わり方はあくまで補助的・支援的であり、活動の方向性や内容の最終的な判断は、協議会が担います。

B-4. 協議会との関係性

サポーターが関わる活動の企画・実施責任は、萩ジオパーク推進協議会が担います。協議会は、

- 活動内容の提示
- 役割分担の整理
- 必要な知識や情報の共有

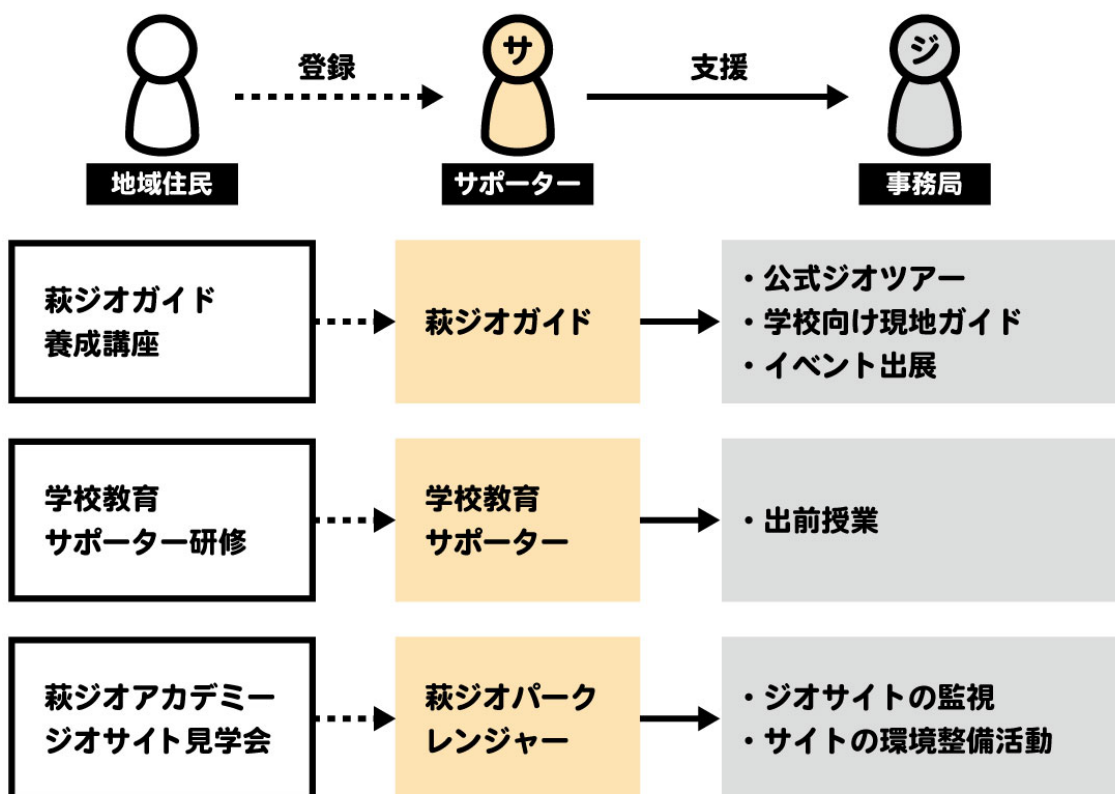
を行い、サポーターが無理なく関われる環境を整えます。

サポーターは、協議会の主体性のもとで活動を支える存在であり、パートナーのよう

に自らの事業として主体的に活動する立場とは区別されます。

- 自ら事業を立ち上げることは求めない
- 成果創出や継続運営の責任は負わない

その分、参加のハードルを低くし、奉仕的な動機や関心に基づく関与を可能にします。



C. ファン（活動応援者・コア利用者）登録の仕組みについて

C-1. ファンの位置づけ

ファンは、萩ジオパークの活動や価値観、世界観を「楽しむ」「応援し」「利用する」立場として関わる関係者です。事業や運営を担う立場ではなく、利用者・支持者として関わることで、活動の循環と持続性を支えます。

C-2. ファン登録の流れ

ファンは、理念の普及を目的とした講座やツアー、イベント等を通じて萩ジオパークの考え方に触れたうえで、希望により登録します。登録は誰でも可能とし、活動への関わり方や関心の度合いに応じて、無理なく参加できる仕組みとします。

C-3. ファンの関わり方

ファンの関わり方は、自分自身が楽しむことを起点としています。

- ジオパークのプログラム、イベント、商品等の利用
- 情報発信への共感・応援・共有
- 必要に応じたフィードバックや感想の提供

ファンの関わり方は、日常的でなくてもよく、任意で自由であることを前提とし、「自分が楽しむ」「価値を感じる」ことを起点とした主体性を持ちます。

- 活動を支える義務や責任は持たない
 - しかし、利用や応援という行動が、結果として活動を支える
- この立場は、パートナーのような実装主体とは異なる主体性です。

C-4. ファンに対する優遇・還元考え方

ファンは、活動を支える重要な存在であることから、参加や利用を通じて還元を受けられる仕組みを設けます。具体的には、

- ファン限定・先行での情報提供
- 優先参加枠や特典付きプログラム
- 限定商品・限定体験の提供

など、一般利用者との差別化を図り、「応援するほど楽しみが深まる」関係性を目指します。

C-5. 活動中での役割

ファン制度は、

- 活動の価値を社会に広げる

- 経済的・社会的な循環を生む
- パートナーの実装を現実社会で支える

ための、循環の外縁を形成する仕組みです。これにより、萩ジオパークの活動が「内輪の取組」にとどまらず、社会に開かれたものとして循環していきます。

